

下 関

赤米の稻刈り 児童体験

弥生時代の衣服 貫頭衣身に付け

〒750-0014
下関支局 下関市岬之町14-1 6F
電話083・231・0073 FAX231・0481

s.shimonoseki
@mainichi.co.jp

購読相談室
093-541-3130 (平日10-18時)

実った赤米を刈り取る豊北小の児童



刈り取った赤米の稻をはせ掛けする豊北小の児童

古代米に近いとされ、
児童は弥生時代の衣服
「貫頭衣」を身に付け、
楽しみながら稻を刈つ
た。

弥生時代の人骨が約
300体出土している
土井ヶ浜遺跡からは、
稻穂を刈り取る際に用
いた石包丁が出土し、
付近には水田の跡も発
見られた。

古代米を食べていた
ユーラシアでは、子供
たちに弥生時代の生
活や地元の歴史に関心
をもってもらおうと開
館当時から毎年、赤米

の田植えと稻刈りを体
験する場を設けてき
た。

見

さ

れ

て

る

い

く

る

い

く

る

い

く

る

い

く

2023.11.1

開始前にミュージアムの松下孝幸館長は、「土井ヶ浜弥生人は米などの陸上資源や海藻などの海洋資源をバランス良く食べていたことが分かってきた」と説明し、「皆さんも好き嫌いせず何でも食べてほしい」と語った。続いて、子供たちは豊北町で無肥料無農薬で米を栽培している西嶋昭二さん(57)から鎌の使い方を学ぶと、38.5平方㍍の田んぼの中へ入り、最初に石包丁を使って弥生時代の稻刈りを体験。その後、鎌を使って思い思いのペースで稻を刈り取つていった。

参加した中山博翔さん(12)は「刈つたり運んだりと楽しかった。赤米を食べるのが樂しみ」と笑顔だった。稻は4日間ほど、はせ掛けして乾燥させてから脱穀し、子供たちに配られる予定。松下館長は「弥生人の生活を知つてもらうことはもちろんだが、米がどうやって実っているのかを実際に見てもらうことが必要」と語った。